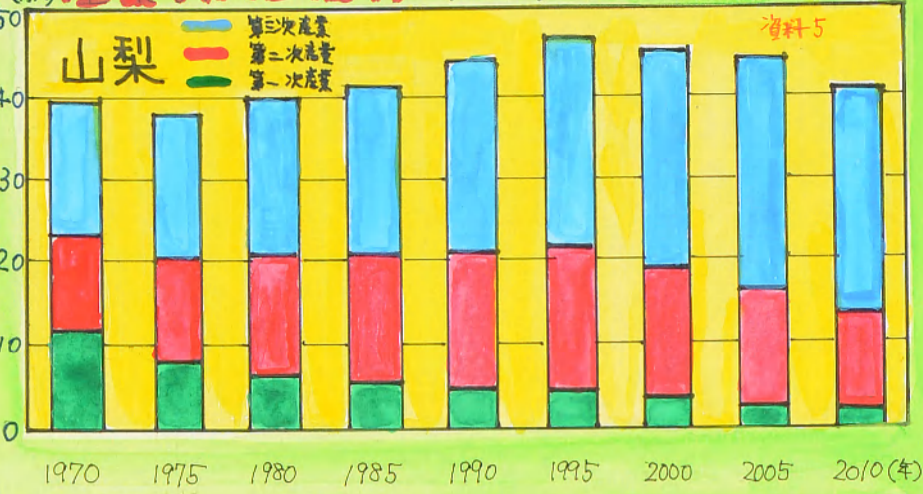


山梨の農業を救え!

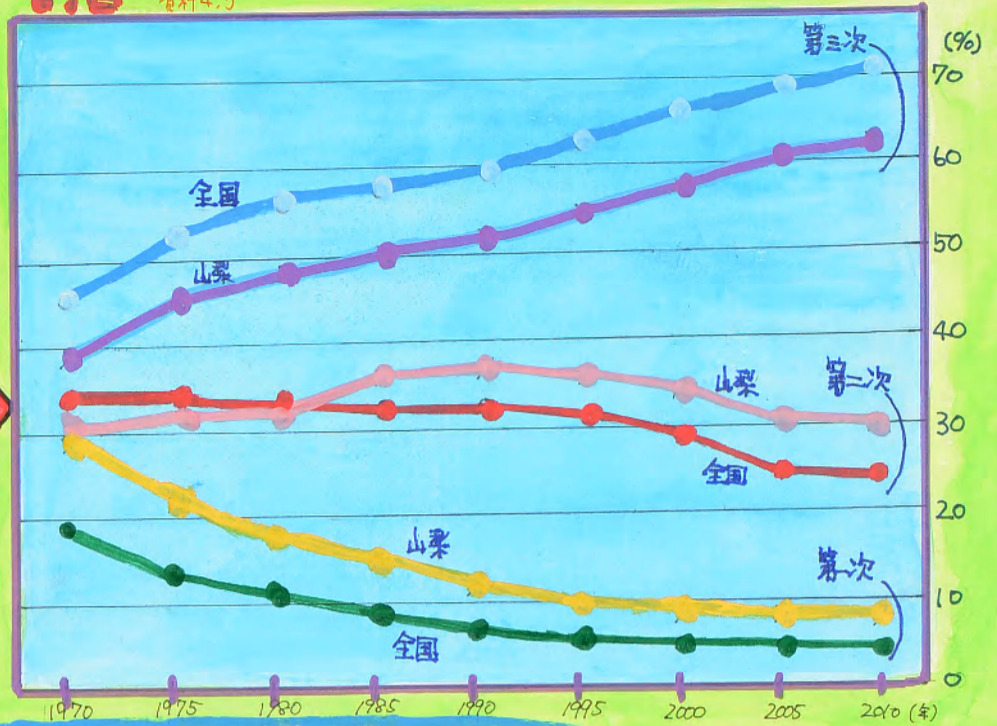
参考資料

- 1) 農林水産省平成19年経営形態別経営統計
- 2) 農林水産省平成23年農業構造動向調査
- 3) 総務省平成19年家計調査
- 4) 総務省平成22年国勢調査
- 5) 山梨県統計年鑑(平成16年・26年)
- 6) 平成25年度山梨県常住人口調査

産業別人口推移 (人数)

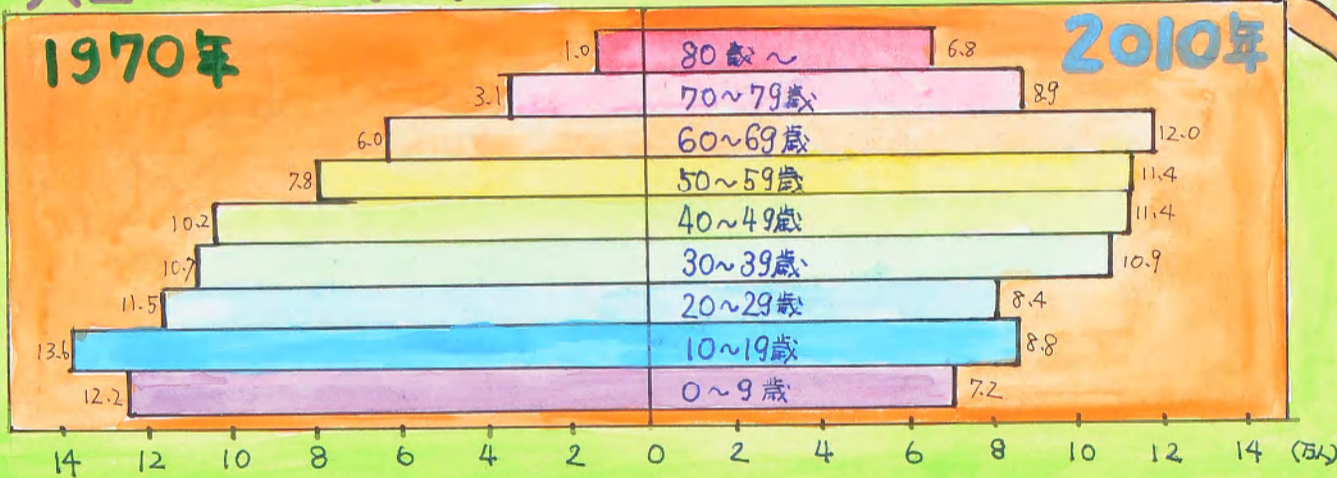


割合



全国も山梨も第3次産業が増加し第1次産業が減少している。割合的には山梨は全国より第1次産業が多く第3次産業が少ない。

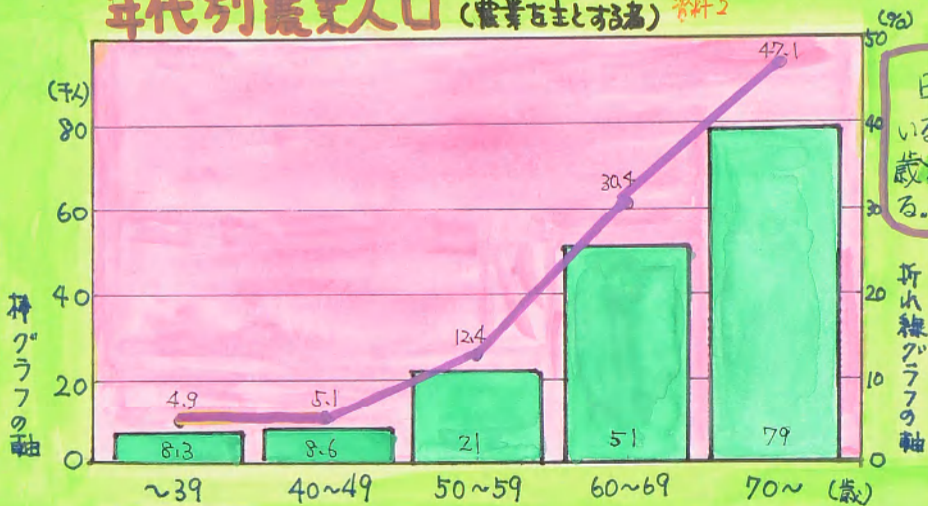
人口ピラミッド (山梨)



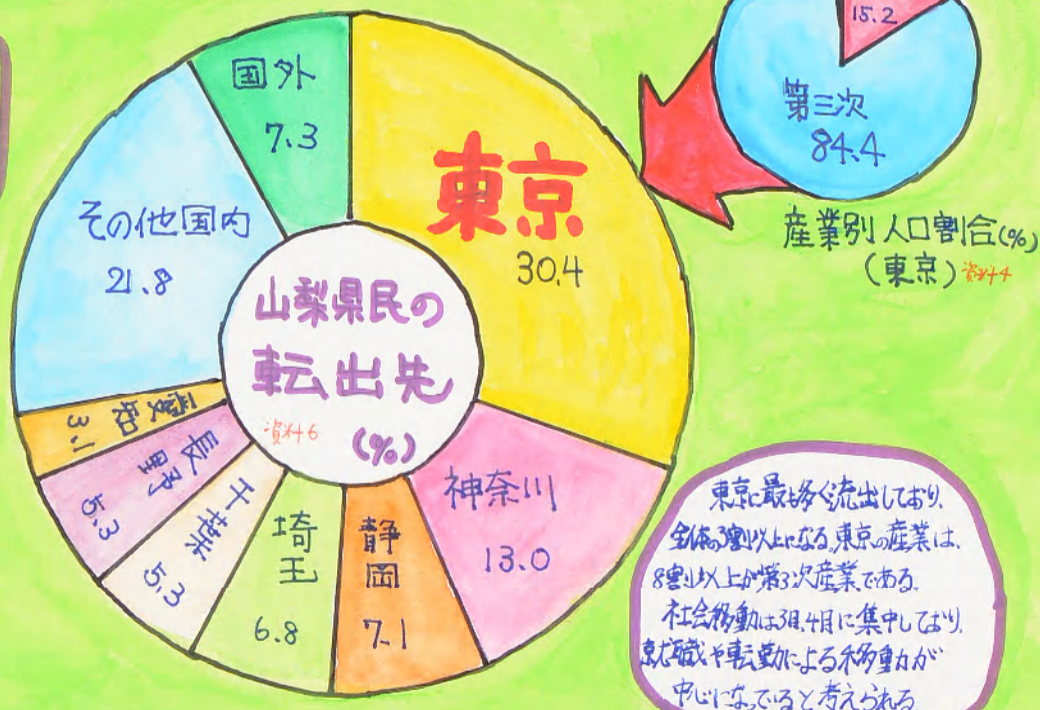
人口ピラミッドはつがね型からつぼ型へ変化している。これには、近年の少子化が関係していることは間違いないが20代が極端に減少し、40~50代も自然現象以上に減少している。これは山梨に第3次産業が少ないため若い世代が県外に流出しているからと思われる。



年代別農業人口 (農業を主とする者)



日本の農業を支えているのはなんと60歳以上の方である。



東京に最終的に流出しており、全体の3割以上は東京の産業に、8割以上が第3次産業である。社会移動は3月、4月に集中しており、就職や転職によるもの割合が中心になると考えられる。

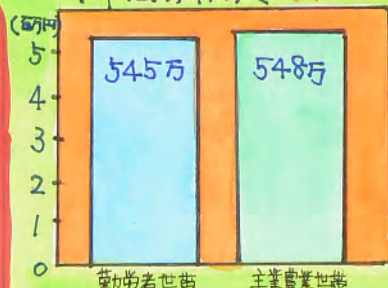
結論

若い世代の農業離れは問題である。しかし、第3次産業が中心である現在の日本の状況を変えることは困難である。

60代以上の高齢者が農業の中心であることは大変に思える。しかし、現在の日本の農業はこれで成り立っている。即ち、農業は企業などを退職した年代の方でも行うことが可能であるといえる。

就職のため山梨が離れたひとが定年退職して戻ってから農業に就くれば、山梨の農業の衰退は防ぐことができると考えられる。山梨も高齢化が進んでいる。定年後の収入問題も解消できて、一石二鳥である。

1年間の収入



農業収入が少ないと思っていたが会社に就職した場合変わらない。むしろ少し多いくらいである。

